

会 議 録

会議の名称	第2回上尾市総合計画審議会		
開催日時	令和7年2月13日(木) 13:00~14:03		
開催場所	市役所本庁舎7階 大会議室		
議長(委員長・会長)氏名	上尾市総合計画審議会 会長 八木 規子		
出席者(委員)氏名	荒川 昌佑、小池 佑弥、斎藤 哲雄、平田 通子、前島 るり、猪野塚 将、 磐田 朋子、大澤 サユリ、小杉 道郎、酒井 憲司、酒井 剛志、土橋 康夫、 三井田 晴宏、八木 規子		
欠席者(委員)氏名	今村 恵一郎		
事務局(庶務担当)	行政経営部長 池田 将寛、行政経営部次長 堀部 弘幸、 行政経営課長 本郷 美代子、行政経営課副主幹 福島 雅也、 行政経営課主査 沢辺 司、行政経営課主任 橋本 香菜子		
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果	
	1 開会 2 会議の公開について 3 議 題 (1) 「現況と課題」及び「取組の方向」について (2) その他 6 閉会	報告・説明と質疑応答	
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者	1人
会議資料	別紙のとおり		
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和 7 年 3 月 11 日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 <u>八木 規子</u></p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>			

議 事 の 経 過

司会 (堀部次長)	<p>1 開会</p> <p>定刻になりましたので、第2回上尾市総合計画審議会を始めさせていただきます。司会の行政経営部次長の堀部と申します。よろしく願いいたします。次第に添って、進めさせていただきます。</p> <p>本日の会議は、総合計画審議会条例の規定に基づきまして、委員の皆様の過半数のご出席をいただいておりますので、有効に成立していることをご報告いたします。</p>
司会 (堀部次長)	<p>2 会議の公開</p> <p>それでは審議会の条例の規定によりまして、今後の進行につきましては、八木会長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。</p>
八木会長	<p>それでは、議事の進行を務めさせていただきます。次第の2、「会議の公開について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局 (本郷課長)	<p>本審議会につきましては、審議会等の会議の公開に関する指針に従いまして、初めての審議会において原則公開ということで採決されていることをご報告させていただきます。</p>
八木会長	<p>それでは事務局に確認いたします。 本日傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。</p>
事務局 (本郷課長)	<p>はい。傍聴希望者が1名いらっしゃいます。</p>
八木会長	<p>では、ただいまから傍聴者に入場していただきます。事務局は傍聴者を入場させてください。議題に入ります前に傍聴者に傍聴上の注意いただきたいことについて申し上げます。先ほど事務局よりお配りいたしました「傍聴要領」をよくお読みいただき、遵守していただきますようお願い申し上げます。また、傍聴要領に反する行為をした場合は、退場していただくことになる場合がありますので、ご留意いただきますようお願いいたします。</p>
八木会長	<p>3 議題</p> <p>それでは、次第3、議題に入ります。議題1、「現況と課題」及び「取組の方向」について事務局からご説明をお願いしたいと思います。まずは計画策定の基礎資料である資料1から資料5までについてのご説明をお願いします。</p>
事務局 (沢辺主査)	<p>はい。それではご説明いたします。まず、説明に入る前に、事前にお送りして本日お持ちいただいております資料の確認をさせていただきます。</p> <p>会議の次第 資料1 基礎調査（現状分析）報告書 資料2 基礎調査（将来推計）報告書 資料3 市民ワークショップ結果報告書 資料4 若者会議結果報告書 資料5 こどもアンケート報告書 資料6-1 テーマ1 結婚出産子育て支援 同じ件名ですが、資料番号資料6-2 とある横長の資料</p>

資料6-3 施策体系図

資料6-4 (横長のA3の資料)

会議の次第も含めまして資料1から資料6-4まで10種類の資料を事前にお送りしております。加えまして、本日、皆さんの席に置かせていただきましたA4縦長の資料1枚、資料1の補足資料を追加しておりますのでご確認ください。資料に不足等ございませんでしょうか。

では、説明に移ります。本日は資料が多数ございますが、内容としては大きく2つに分かれます。資料1から5が、次の後期基本計画を策定するにあたっての基礎資料となるものでして、調査やワークショップなどを行った結果の報告書です。そして資料5までの内容を踏まえまして、後期基本計画の構成を検討するための資料が、資料6の枝番号1から4まで振ってあるものでございます。本日の第2回審議会は、この場で何かを決定するというものではないことを最初にお伝えします。会議の時間も限られておりますことから、ポイントを絞って説明を進めます。

それでは、資料1、基礎調査(現状分析)報告書をご覧ください。

この資料は、次期計画の策定作業を進めるにあたりまして、現状把握のための資料としてまとめたものです。各資料のページ下の方にページ番号を振っておりますので、このあとの説明ではページ番号をお伝えして、そちらをご覧くださいと思います。では、1ページ目をご覧ください。1ページから18ページ目までの、この資料の前半部分に昨年度(令和5年度)に実施した市民意識調査の結果分析を載せています。市民意識調査がどのようなものかについて説明しているのが、本日皆様のお席にお配りしたA4の資料1枚でございます。右肩に資料1補足資料とあるものです。どのようなアンケートかと言いますと、18歳以上の市民3,000人を抽出してアンケートを送付したもので、回答方法は紙の回答を送り返すか、インターネットを利用して回答するかというものです。回収率は55.6%、大体半分の方が答えたというアンケートでした。アンケート結果に関する個別の説明は割愛させていただきます。19ページまでお進みください。ここからの資料後半部分は、主要な統計指標から、本市の現状を知ろうというものです。19ページの下半分に表を載せております。比較対象都市というタイトルの表ですが、今回上尾市以外に18の自治体を比較対象に選びまして、この後のページで比較を行っております。比較対象都市の選定理由をこの表の右側に記載しておりまして、近隣の市町や人口規模の近い県内の自治体と、それに加えて、都心からの距離その他の条件に関して、本市と共通点がある県外の自治体を選んでおります。

ページを少し進んでいただいて21ページ目をお願いします。こちらは人口動態に関する各種データを県内自治体と比較した資料でございます。例えば表の左側の列に人口増減率とありますが、比較対象の自治体に人口減少を意味するマイナスの値が多い中で、上尾市はプラス0.63とプラスをキープしております。偏差値でいうと58.2という値でございます。同じページの下半分には、表の内容をレーダーチャートにして載せております。赤い点線が平均値ですので、上尾市はここに挙げた全ての項目において、県内の比較対象都市の平均を上回っておりまして、特に右下、社会増減について優位性があること等が確認いただけたと思います。

次の22ページには、県外の自治体との比較を載せております。前のページと同じ人口動態関係の統計値に関する比較ですが、先ほどと違いまして、レーダーチャートで上尾市のことを表す青い線の形が少し平均に寄って小さくなっていることが確認いただけたと思います。この後のページでは、人口構成や産業、就労など切り口を変えて他自治体との比較が続いております。後ほどお目通しいただければと思います。

35ページ目までお進みください。他自治体との比較はこの前までで終わりまして、ここからは経年比較から見た上尾市の現状です。各種統計データをもとに、本市の人口や産業、財政がどう変化してきたかということをもとめておりますので、詳細な説

明は割愛しますが、後ほどご覧いただければと思います。

では、次の資料に移ります。資料2 基礎調査（将来推計）報告書をお願いします。こちらの資料名にも先ほどと同じく基礎調査という言葉が入っていますが、先ほどの資料が現状に関するものであったのに対しまして、こちらは将来の推計についてまとめたものです。表紙の次に目次がありますので、そちらをご覧ください。大きく4つのパートに分かれておりまして、まず1番は人口の将来推計、2番は産業経済の将来推計、3番は財政の将来推計、そして最後4番で考察をするという全体の構成でございます。

1 ページ目から10 ページ目までは、将来の話をする前にまずは現在までの経過を記載している部分ですので説明を飛ばしまして、11 ページ目までお進みください。こちら本市の総人口の推移に関するグラフです。黄色と青色の線は現行計画にも載っているものでして、黄色がベースとなる推計です。ベースの黄色に対しまして、人口の減り方を緩やかにできた場合として載せたのが青色の線です。黄色と青色の線はいずれも令和2年度に推計を行ったものです。対しまして、赤線は、直近の令和5年までに実際に人口がどのような経過を辿ったかという事実の部分でして、言うなれば令和2年度に行った人口推計の答え合わせを行っているものです。推計では、緩やかな右肩下がりであったのに対しまして、ここ数年だけの短い期間の推移ではありますが、実際のところ人口は増加して上尾市の総人口は23万人台をキープしています。直近の数字を見ると2月1日現在は少しだけ23万人を下回っていますが、ここ何年かは、ほぼ23万人を超えているという状況が続いています。

続いて12 ページ目をご覧ください。こちらは国立社会保障人口問題研究所（社人研）の直近データに基づく上尾市の人口推計です。赤線が総人口でして、その他の色は年齢の区分別に年少人口、生産年齢人口、老年人口と分けて表したものです。この12 ページ目のグラフがベースとなる推計でして、それに対して出生率が変化した場合のシミュレーションを14 ページ目以降で行っています。合計特殊出生率が現在1.19ですが、この1.19のままのパターンと、上昇して1.80になったパターン、そして人口が維持できる水準と言われる2.07まで上昇するパターンの3つを載せております。ここまで市の総人口について出生率を何通りか変化させた推計の話をしてまいりましたが、同じシミュレーションを市内の6地区に分けて行った結果を17 ページ目から29 ページ目までで記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

30 ページ目をお願いします。ここまで人口の話をしてまいりましたが、次は産業に関する推計です。例えばこの30 ページ目には、上尾市の年度別市内総生産額を載せております。若干棒グラフが凸凹しておりますが、年々増加する方向で推移しています。この後のページで同じく産業について産業大分類別の資料などが続いてまいります。そして38 ページ目から、財政に関する推計で、最後2 ページで考察を載せているという構成ですので、後ほどご覧いただければと思います。

資料3、市民ワークショップ結果報告書をお願いします。1 ページ目をご覧ください。ワークショップの概要を載せております。無作為抽出した市民3,000人を対象に参加募集をかけたところ、100人近い応募がありまして、こちらの想定した枠よりもかなり多くの方から参加したいという声をいただき、会場の大きさに限りもあったので、抽選で人数を絞りまして、全部で4回のワークショップを実施いたしました。ご覧いただいている1 ページ目の下半分に各回のテーマを載せております。現行の総合計画の体系をもとに各回2つずつテーマを設定しまして、上尾市の良いところあるいは気になるところについて、普段の生活実感をもとに話し合いを行っていただきました。

4 ページ目をお願いします。こちらには、子育て・教育とにぎわいをテーマとした第1回ワークショップのまとめのコメントとともに当日の様子を載せて

おります。ワークショップの雰囲気をこの資料でご覧いただければと思います。5ページ目は第1回の1班から出た意見のまとめです。当日は意見出しのために模造紙に皆さん意見を書いて付箋で貼っていくということをしたのですが、それを再現したのが6ページ目です。これ以降、各回各班の意見のまとめを載せておりますが、全体を通してみますと、良いところとしては公園の多さ、あるいはお祭りやイベントの多さ、商業施設の多さに関する意見が複数挙がっていました。気になる点としましては、道路の状態の悪さや歩道のバリアフリー化の状況、道路の渋滞に関する事、バスの不便さなどが挙げられておりました。無作為抽出による参加者の募集というのは市としては今回初めての試みでしたが、参加した方からは「参加できて良い経験になった」、「こういう機会を継続してほしい」といった意見をいただくことができました。

続いて資料4 若者会議結果報告書をお願いします。1ページ目をご覧ください。こちらは若者会議の概要です。市内在住、あるいは在学の25歳以下の高校生・大学生の方を対象に参加を募集したところ、20人ほどを想定していたのですが、19人の応募があり、当日は1人欠席で18人に参加いただきました。3ページ目をお願いします。当日は上尾市の好きなところ・気になるところについて、普段の生活や学校生活で感じていることをもとに話し合ってもらい、その後、理想の上尾市を表すキャッチフレーズあるいは取組について考えてもらいました。4ページ目をお願いします。例えばこの4ページ目から7ページ目までが、1班の話し合いの結果です。3つの班を組んだのですが、1班の話し合いの結果をまとめたのがこのあたりです。全体としましては、学校教育あるいは交通など参加している方にとって身近な事柄が話題の中心となっていました。そして、参加者の中には市外から上尾市内の学校に通学する生徒さんもいたのですが、そういった市外に住む方からも本市に愛着を感じている旨の発言があるなど全体的に前向きな意見が多い印象のワークショップでした。

次に、資料5 こどもアンケート報告書をお願いします。1ページ目の上半分にアンケートの概要、そして下半分にアンケートの内容を記載しております。まず対象ですが、市内の公立小学校の3年生、5年生、そして中学校の2年生、この3つの学年を対象にアンケートを実施しました。設問は全部で13問あり、回答者の考えに近いものを選択式で選ぶことを基本に作っております。一部記述式で自由に書ける箇所も設けました。あまり設問が多いと回答率が下がるというのが一般的ですので、全体で、5分程度で回答できるようになるべく数を絞って設問を用意しました。

2ページ目をお願いします。ページの上の方に回答状況の表を載せております。アンケートをやってどのくらい返ってきたかという情報です。学校にいる時間内ではなく、学校の時間外で家に帰ってからやっってくださいという任意のアンケートでしたので、回答率約43%というのは想定を超える良い結果だったと捉えております。3ページ目からアンケートの各設問のまとめが続いてまいります。12ページ目までお進みください。12ページ目の下の方の問11です。ここでは、あったらいいと思う施設を選択式で尋ねた結果をまとめております。そして、次の13ページには前の設問でその他を選んだ方の自由記述のまとめもございますが、総じて遊び場に関するものが意見としては多く、暑い日や雨の日でも安心して遊べる場所を求める意見や、ボール遊びを自由にできる場所が不足しているといった意見が目につきました。14ページ目までお進みください。好きな場所や残したい風景などを聞いた問13では、公園との回答が最も多く、小中学生ならではという結果でした。回答を大まかに分類して多かったものから並べていますが、上位のものについてはページの下に具体的にどのようなことが書いてあったかという内訳を載せております。例えば「公園」については、固有名詞で丸山公園と挙げたものが多く、「自然」と分類したのものの中には鴨川沿いの桜並木など身近な自然が残り続けることを望むような意見が多く見られました。また、「学校」とあるものは、回答者の母校である小学校名を挙げるものが多かったという結果でした。15ページ目以降、昨年度実施された市民意識調査とこどもアンケ

	<p>ートの比較可能な部分について、両者の比較を行っています。例えば、今ご覧いただいている 15 ページ目は、住みよさについてまとめたものですが、白黒の円グラフ、18 歳以上全年代を対象とした市民意識調査と、カラーの円グラフ、こどもアンケートの結果を比べますと、少しポイントに違いはありますが、大まかにみて傾向は同じであるということがわかりました。</p> <p>資料 1 から資料 5 までの説明は以上でございます。</p>
八木会長	<p>ただいま事務局から資料 1 から資料 5 の説明がありましたけれども、委員の方から何かご質問よろしいでしょうか。</p>
荒川委員	<p>資料 4 若者会議について。チラシでの公募でそもそもこういうことに興味があるお子さんだったということで、定員 20 名ということで今後もやるのであれば、対象を薄く広くした方がいいと思います。</p> <p>5 ページでキャッチフレーズは面白いですね。「天国から地獄へ」というのは、どういったことからこうなったのかもし分かれば教えてください。</p>
事務局 (沢辺主査)	<p>資料にも少し書いてありますが、校則の見直しについて、今が地獄かどうかはさておき、本人達にとってより良いものになればという主旨で校則について取り上げたものでした。</p>
荒川委員	<p>若者会議も市民ワークショップも総括があるのですけれども、総合計画は最上位計画ですから、今後活かしていくわけですよ。今日この報告を聞いて、はい、そうですかと終わりにしないためにも、行政経営課として、今この若者会議とかそういったものをどう総合計画にしていこうという考えがあれば教えてください。</p>
八木会長	<p>ご質問いただきましたが、今お答えいただけますか。</p>
事務局 (本郷課長)	<p>確かに地獄からというのが非常にストレートな表現だと思います。私もこの若者会議を見ていた中で、自分の学校という範囲と上尾市という範囲が入り乱れている部分もあります。そのため、今回報告としてこういうことが出ましたと、かなりストレートの状態を出してはいるのですが、今後、市として取り組むべき部分と市でもどうにも難しい部分を取捨選択していく形にしていこうと思っております。</p>
荒川委員	<p>法定協議会のこの審議会という中で、議員の皆さん、先生方にお忙しい中来ていただいておりますので、実りある総合計画・審議会となるように協働でやっていきたい。</p>
八木会長	<p>他にご質問ございますか。</p>
小杉委員	<p>若者の意見が 18 ということであまりにも母数としては少ないように思いますので、これをもって若者の意見という風にまとめるのは、もう少しあったほうが良いと思います。</p> <p>それと若者とこどもの意見とありますが、高齢者というのではないのでしょうか。一番過去と現在を知っていて、将来をどうあるべきかという風に思っているのはやはり高齢者の方が多いのではないかと思うので、その辺もぜひ取り入れていただければと思います。</p>
八木会長	<p>その点については事務局からございますか。</p>

<p>事務局 (沢辺主査)</p>	<p>ご意見ありがとうございます。まず、若者会議 18 人ということで若者を代表するには少ない数ではないかということで、これはおっしゃる通りだと思います。今回色々初の試みをしたうちのひとつとして、試験的にやった部分もあるので、これが市にいる何千、何万人の若者全体を表しているとは思わないですが、これを入口にまたこの先こういった取組を続けていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。</p> <p>アンケートも、こどもアンケートの対象は3 学年ですが、5 千何人という母数に対して、2,000 超の回答が返ってきていますので、貴重な意見として、この総合計画でも活かしますし、すでに共有している部分もありますが、関係所属にも共有してやっていきたいと思ひます。</p> <p>もう1つの高齢の方のご意見ということですが、もちろん蔑ろにしているわけではなく、市民ワークショップの報告書について先ほどご説明しましたが、今回なるべく色々な年代の方の話を聞きたいということで、大体 10 歳区切りで区切っていくまして、50 代や60 代以上の年代の方にも参加いただいておりますので、そこで意見はある程度汲み取れていると思ひています。</p>
<p>八木会長</p>	<p>小杉委員よろしいでしょうか。他に何かありますでしょうか。</p>
<p>平田委員</p>	<p>多くの市民・若者の声を聞こうということで、様々な取組がなされて、広く努力をされていてよかったと思ひます。若者会議はどうやって募集したのでしょうか。</p>
<p>事務局 (沢辺主査)</p>	<p>募集は、まず、市の広報誌で案内を出しました。その上で、報告書の2 ページ目に載せたようなチラシを何百枚という単位で用意しまして、私立も含めた市内にある高校の全てを、私ともう一人の担当者で回って校内に置いていただいたり、八木先生がいらっしゃる市内で唯一の大学の聖学院大学にも同じように置いていただいたり、あとは近隣の芝浦工業大学、日本薬科大学にも営業をかけて、上尾市に関わりのありそうな若者がいるようなところに直接出向いて行ってチラシを置いたというやり方をしています。</p>
<p>平田委員</p>	<p>若い人の声を聞くというのは大切だと思う。若者会議が1 回限りというのがとても惜しいような気がして、市民ワークショップも4 回とやっているのであれば、この若者会議もあと1, 2 回できないのかと思うのですが、計画はないのでしょうか。</p>
<p>事務局 (沢辺主査)</p>	<p>まず、この先、1 年ほどの策定期間において若者会議をまたやるという予定はなく、1 回の予定の会議なので、それが終了したという認識ではありますが、平田委員のおっしゃるようにせっきやく繋がりもできて、連絡先もわかるので、未定ではありますが、機会があれば、意見を求められる相手としてまた関係を持てればと思ひております。</p>
<p>八木会長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>平田委員</p>	<p>意見ですが、ワークショップの応募が凄く多かったというのもうれしいことなのですが、上尾市のこの先に関心を持ってもらえる次世代の人が増えるというのはとても重要だと思いますので、ぜひ継続できるような形で働きかけていただけたらと思ひます。</p>
<p>磐田委員</p>	<p>資料2 について質問があります。資料2 の11 ページ目ご説明いただいたのですが、素朴な疑問として令和2 年の推計というお話でしたが、令和2 年のところまでが実績と合っていないというのはどのような理由なのかというのが1 点。もう1 点目が、今後の人口推計を社人研のシミュレーションやられたということですが、これに関して</p>

<p>事務局 (福島副主幹)</p>	<p>も実績からずれている推計になっているので、このあたり方法につきまして教えていただければと思います。</p> <p>まず、推計が初めからずれていることについてですが、元々前回令和2年度の総合計画策定の際には、国勢調査に基づいた推計を使っています。国勢調査は5年に一度行われていまして、平成27年の国勢調査のデータが最新だったものですから、そこから積算をしているところでありまして、そのため、推計も平成27年が一致してここからずれていっているということになります。どうしても国勢調査のタイミングと総合計画の策定のタイミングがずれているので、その推計のずれが生じます。余談になりますが、推計に関しては社人研の行っている国勢調査を基にした推計と、住民基本台帳の人数を使った推計がありますが、全国的に行われているのは、社人研に基づいた推計になりますので、他市との比較も考えますと、単独で住民基本台帳の数字から推計を行うよりは、国勢調査の数字を持つてくるのが一般的と言われていまして、他市においても同様なことが行われています。今回の上尾市の後期基本計画においても、令和2年度の国勢調査の結果を使うしかないものですから、また若干ずれが生じるということになります。</p>
<p>磐田委員</p>	<p>今後のシミュレーションについては、令和2年度のデータに合わせてされるということで。はい、ありがとうございます。</p>
<p>八木会長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>磐田委員</p>	<p>そうですね。ただ、社人研での推計と実績がかなり乖離した要因につきましては、外から入られた方が多かったからとか、社人研でのシミュレーションを実施されるにしてもプラスα起こりうる人口の変化について考慮しておいた方がよろしいのではと思いました。</p>
<p>土橋委員</p>	<p>統計の関係の中で昼夜人口比率って前、私よく首都圏の隣接の地域でまちの生活を言う時の指標にしていたのですが、それをどう使って行政が繋がるのかわかりませんが。今回の資料の中では、見落としたかわからないが、最近はあまりその辺のことは見ていないのかという質問です。</p>
<p>事務局 (本郷課長)</p>	<p>資料1の27ページ、28ページで説明させていただきます。比較の中で項目の1つとしては挙げさせていただいて、他市に比べると昼夜人口比率は低い傾向にございます。日中、さいたま市や都心の方に出かけているの方が他市に比べて多いという形です。</p>
<p>土橋委員</p>	<p>これは就学者も含めますよね。ありがとうございました。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>回収率は55.6%で44.4%の方の声がないですね。例えば先ほどおっしゃった我々高齢者とか子どもでも不登校の子どもたちとかそういう人たちに対してはどのようにしているのか。取り上げはしないのか、あるいはこのアンケートの中にも入っているのか。</p>
<p>事務局 (沢辺主査)</p>	<p>ご質問内容の確認も兼ねてなのですが、55%の回答率であったということは裏を返せば約40%の方の声を拾えていないということで、その辺りのフォローをどうしていくかというような、そこが課題ではというお話かと思いますが、確かに全数に聞くのが間違いないのですが、なかなかアンケートの特性上できないことですので、今こ</p>

<p>八木会長</p>	<p>うします、ですとか、こうフォローしていますという答えはないのですが、課題としては捉えていきたいと思っております。</p>
<p>事務局 (沢辺主査)</p>	<p>よろしいでしょうか。それでは、次に進みます。計画の内容検討に関わる資料として資料6-1から資料6-4がございます。こちらについての説明を事務局からお願いいたします。</p> <p>それでは、引き続きご説明いたします。</p> <p>ここからは後期基本計画の中身の検討の話に移ってまいります。総合計画策定の庁内プロジェクトチームというものがございまして、中堅から若手の職員12名で構成されているのですが、そのプロジェクトチームが庁内の各部局に対して実施したヒアリングの結果と、今後の方向についてお話いたします。</p> <p>まず、資料6-1をご覧ください。こちらは、現在進行中の総合計画の一部を抜粋したものでして、25個あるテーマのうち1番目のテーマ1、結婚出産・子育て支援に関連した3つのページでございます。現行計画の冊子からテーマ1だけそのまま抜き出したというものです。</p> <p>こちらの内容につきまして、先ほどお話しした庁内プロジェクトチームのメンバーが担当部局から現状や課題を聞き取った結果が資料6-2です。資料の上半分が今の計画の記載内容そのままです。それに対しまして下半分、赤字が入っているのが、ヒアリング結果を反映させたものです。ここまでテーマ1を例にご説明いたしましたが、このようなやり方で現行計画の25ある全てのテーマについて担当部局に対するヒアリングを実施しました。現行計画の策定作業をした時期は令和2年度が中心ですが、その当時から現在までの間に各施策を取り巻く状況も変化しておりますので、そのあたりのことを当事者である担当部局から聞き取って、次の計画に反映しようという趣旨でございます。</p> <p>次に資料6-3 施策体系図をお願いします。こちらは現行計画の施策の体系図です。縦割りに3つの塊になっておりまして、一番左が施策の大項目、その右隣に施策の中項目、一番右に施策の小項目という構成になっております。8つの大項目にそれぞれ中項目・小項目が紐づいているという構成です。このような現在の体系に、先ほどご説明したプロジェクトチームのヒアリング結果などを反映したものが資料6-4です。赤字となっている部分が、前期基本計画からの変更を検討している部分でございます。例えば1ページ目の最初の中項目は、結婚・出産・子育て支援でございますが、昨今、子どもの居場所づくりという事柄が重視されておりまして、前期基本計画において遊び場や放課後児童健全育成という枠組みの中でとらえていた子どもの居場所づくりという概念を、次の後期基本計画では1つの小項目として独立させてはどうかということがそこに書いてあります。</p> <p>資料6のような赤字の内容をどこまで反映するかは今後検討していくことございまして、ここに載せていない要素を盛り込んだり、逆に今載っていることを除いたりという余地はもちろんありますので、資料はあくまで現段階の検討状況をお示しするものです。修正の可能性があるテーマ等につきましては、今後さらに担当部局との調整を進めていく予定でございます。</p> <p>あらゆる部門に関係する総合計画の特性上、ある程度万遍なく、そして網羅的な内容になりますし、どの分野も重要なのですが、そのような中でも特に力を入れていくべき分野などを打ち出していくかどうかなど今後整理していきたいと考えております。</p> <p>今回は今後の検討の基礎となる各種資料の報告が中心となりましたが、年度が明けてから予定しております次回の審議会では、本日資料6でご説明したような次期計画の中身について、さらに検討を進めたものを皆さまにお諮りしたいと考えておりま</p>

八木会長	<p>す。事務局からの説明は以上です。</p> <p>ありがとうございました。今後についてということで、今途中経過ですけれども、資料6-1からご説明いただきました。何かこちらについて、ご質問はございますか。</p>
前島副会長	<p>資料6-4の35ページ、「3 支え合う安心なまちづくり」の「3 障害者福祉」で1が障害児の療育支援の充実、2が障害者の自立支援の充実、と続いています。よく福祉の中で「障害児・者」という表現があります。内容的に障害児も障害者も含めるのであれば、中項目が「障害者福祉」だけでいいのか、「障害児・者」としたらいいのかどうなのかと思いました。</p> <p>次の36ページ「4 誰もが自分らしく暮らせるまちづくり」について、今非常に外国人がいっぱいということでも重要ですが、例えば今の課題としてLGBTQの方などの課題もありますが、これについてはどこにはいるのかちょっと抜け落ちているのかなという気も素人目でございますが、その平和への取組もどこかに入れるのが不自然というか難しいのであれば、単独で項目にしてもという私の勝手な思いでございますけれども以上3点について、どのような風に今後お考えになっているかお聞かせいただきたいと思っております。</p>
事務局 (沢辺主査)	<p>はい。ご意見ありがとうございます。障害児・者という表現ですとか、LGBTQ、外国人、あとは平和の位置づけですが、只今検討中でして、はっきりこうしますと言えることがなく、これから固めていく段階ですので、担当部局からも今の情勢がどうなっているかなど色々聞きながら固めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
小池委員	<p>ご説明ありがとうございました。今回この資料6-4は担当部局とやり取りされているとお聞きしましたが、資料1から資料5の要素がここに反映されているのでしょうか。</p>
事務局 (沢辺主査)	<p>ご質問ありがとうございます。資料6-4に係るプロジェクトチームの庁内向けのヒアリングを夏場に行っておりまして、資料1から資料5を作る作業も夏から秋にかけて行っており、同時期に並走しているような感じでしたので、資料1から資料5が全て反映されているとは言い切れないので、そこをミックスする作業を今後やっとうと思っております。「資料1から資料5の内容が全て反映されたうえでヒアリングを行ったわけではない」というのがご質問への答えでございます。</p>
小池委員	<p>今後、次の審議会には資料1から資料5が反映された状態のものが出てくるという認識でよいでしょうか。</p>
事務局 (沢辺主査)	<p>そのようにご認識いただければと思います。</p>
小池委員	<p>意見ですが、この後期の計画変更するにあたって、結局多分今回取った1から5のアンケートって、前期でやっていた施策の結果がこれになっているわけじゃないですか。なので、多分この結果を各担当部局に共有いただいて、それで答え合わせをしていただかないと後期でどうアップデートすればいいのかの正しい方向性が出てこないと思うので、次こういう風に変えますという話になってくると思うのですが、その準備の段取りはしっかりしていただいて進めていただければと思います。</p>

八木会長	<p>今のご意見はおっしゃるとおりだと思います。それ以外に何かご質問ご意見はございますか。</p>
土橋委員	<p>資料6-4で「自治体DXの推進」という言葉が出てきました。上尾市の場合は、ICT推進計画というのがありますよね。これは、骨組みとしては間違いないけど、ご存じのとおり、生成AIなどは物凄いスピードで進化する中で、行政が追い付いていかなきゃいけない。一方で、総合計画における様々な課題の解決策の1つにDXの活用があるのは間違いない。そうすると、この推進計画というのもその総合計画の同期みたいなのは、どういう風に考えて、ただ単にICTという言葉じゃだめだからDXに変えればいいのかそういう問題ではないと思うのですが、ただそここのところは柔軟に対応できるようにしていかないと。おそらく今庁内でも生成AIも、例えばそのリスクとかあるいはガイドラインとか多分検討されていると思う。同期を取りながら総合計画を進めていくのはどのようにお考えなのか。</p>
事務局 (本郷課長)	<p>この総合計画ができた後に、上尾市ICT推進計画というものが出来上がっております。実際のところ上尾市の中でもまだそのDXの流れに追いつこうとしているような状況にあることはこちらでも否めないところと思っています。そのため、今回この後期基本計画を作るにあたって元々前期計画にDXという言葉を使っていない状態でございますので、それを組み入れていきたいという部分で、今回この小項目に入れさせていただいたということと、おっしゃる通り、ICT推進計画とも同期を図って、今のICT推進計画に入っているものだけではなく、生成AIなど、どんどん発展を遂げておりますので、そういったことも調和をとりながら、計画に方向性を示していきたいと考えております。</p>
土橋委員	<p>前回もお手伝いさせていただいたのですが、その時私の中にDXという言葉はそもそもなかった。SDGsが初めて総合計画に載った。</p>
小池委員	<p>さっきの関連ですが、そもそもこれだけ世の中の動きがどんどん変わっていく中で、そもそもの話ですが、この前期後期で分けるということに対する適正性みたいなものがあるのか。例えばそれこそ前中後みたいな感じで分けていかないとこれから変わっていく時代に対応できなくなってしまうのではと想ったりするのですが、これは次の後期の話ではないかもしれませんが、もしお考えがあれば。</p>
事務局 (本郷課長)	<p>この総合計画は、10か年の基本構想のもとに、前期後期5か年というのを示しております。あとは市役所の中で何十という計画が紐づいている状況にあります。そのため、急にこれを小分けにするのは難しいところだと思うのですが、一方でおっしゃるとおり、世の中の流れもどんどん変わってきておまして、この前期を作る時も、コロナがまさに流行っていた時で、それをどうくみ取るか喧々諤々した覚えもございます。他市の状況を見ましてもまだ前期後期5年、5年というところも多い状況ですが、その見直しを図っている自治体もあるとは伺っております。そのため、今回の後期の5年はこのままいきたいとは思っておりますが、その5年後の第7次を作る際には、そもそも基本構想を何年にするか、前期後期なのか前中後なのか、または何年ごとの見直しを図るのかということは改めて検討する必要があるとは思っております。</p>
荒川委員	<p>総合計画は市の最上位計画であるので、市長も縛られるものであるから。今日、会派で、行田市の新しい市長は新しく当選されて、総合計画を変えたという話を聞いた。この総合計画って、職員の皆さんのバイブルじゃないですか。なので、その職員が見</p>

八木会長	<p>で頑張ろうと、そして参加して下さった若者会議と市民会議の皆さんもよかったなと思えるような総合計画を作れるよう後押しをしてみたいです。頑張りましょう。</p> <p>せっかくお集まりいただいておりますので、どうしても言っておきたいということがありましたら、ぜひ。よろしいですか。</p> <p>では、次、議題2その他についてですが、こちらは事務局から何かございますか。</p>
事務局 (本郷課長)	<p>こちらは事務局から特にございませんが、今年度としての審議会はこれが最後ということで次回先ほどの説明にもありましたけれども、この特に資料6は、具体の話を進めてまいりたいと思いますので、またご協力のほどよろしくお願いいたします。以上です。</p>
八木会長	<p>以上で全ての議事が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。</p>
司会 (堀部次長)	<p>ありがとうございました。皆さま、長時間にわたりご審議いただきありがとうございます。</p> <p>それでは最後に前島副会長から閉会のご挨拶をお願いいたします。</p>
前島副会長	<p>【閉会のあいさつ】</p> <p>以上</p>